



ブラサトルと巡る！ さっぽろ歴史旅

文化財や過去の面影が残る場所をブラサトルこと和田 哲さんと巡り、札幌の歴史や成り立ちを紹介します。

【第5回】

旭町～JR厚別駅



詳細 広報課 ☎211-2036

厚別の中心地として 繁栄した「旭町」

JR厚別駅から南下する停車場通と国道12号の交差点周辺は、かつて「旭町」と呼ばれており、新札幌が誕生する昭和50年代前半までは厚別の中心地としてにぎわいました。「明治時代、国道12号沿いにあった『朝日松（あさひまつ）』という大きな松の木が由来となり、周辺が『旭町（あさひまち）』という地名になったんです」と和田さん。昭和57年に「厚別中央」に改称されましたが、現在もバス停などにその名は残り、地元で大切にされています。

現在も旭町の名が残るバス停▼



和田 哲さん(ブラサトル)

札幌市出身。広告代理店や出版社勤務を経て、札幌や北海道の歴史と地理を解説する街歩き研究家として独立。講演やテレビ・ラジオ出演などのほか、YouTubeで動画を配信中。



▲札幌市保存樹林地に指定されている信濃神社



▲豊平区水車町の標識を付け替えている様子

地名の読み方の変遷

かつて旭町が存在した厚別ですが、もともとは「あしりべつ」と読まれていました。「明治27年に厚別駅が開業し、なぜか『あつべつえき』と呼ばれたことから、その周辺を『あつべつ』と呼ぶようになったんです」と和田さんの言葉からも分かるように、人々の呼び方が地名の読み方を変えることがあります。最近では、昨年10月に豊平区の水車町の読み方が「すいしゃちょう」から地域で親しまれてきた「すいしゃまち」に変わったことも記憶に新しいのではないのでしょうか。

移住者のふるさとへの思い

厚別駅近くの信濃神社は、長野県出身の河西由造と同郷の移住者たちが、河西由造のふるさとである諏訪大社の分霊を祭り建立したもの。「信濃」の名は、諏訪以外の出身の移住者にも配慮して付けられたものなんです」という和田さんのお話の通り、移住者のふるさとへの思いを伝える、歴史深い神社です。